

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	24-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Diagnostic validity of drinking behaviour for identifying alcohol use disorder: Findings from a representative sample of community adults and an inpatient clinical sample 飲酒行動を用いたアルコール使用障害の診断の妥当性：地域住民および入院患者での検討		
<b>執筆者</b>		
Garber ML, Samokhvalov A, Chorny Y, LaBelle O, Rush B, Costello J, MacKillop J.		
<b>掲載誌</b>		
Addiction. 2025 Jul;120(7):1431-1440. doi: 10.1111/add.70037. Epub 2025 Mar 31.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒行動 アルコール使用障害 診断 妥当性		40162686
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコール使用障害(AUD)同定の為の飲酒行動による診断の精度を米国地域住民およびカナダの患者集団で明らかにする。また、性差についても検討する。		
<b>方法：</b> 米国の地域住民集団（25773人, AUD20%）とカナダの患者集団（1341人, AUD82%）において飲酒行動によるアルコール使用障害の分類能をROC、AUC、精度、感度、特異度、陽性的中度、陰性的中度により評価した。診断には飲酒量と飲酒頻度、最大飲酒量、多量飲酒頻度等の指標を用いた。AUDの臨床診断は、地域住民集団は構造化面接で、患者集団は症候チェックリストで行った。		
<b>結果：</b> 飲酒行動の指標は全てAUDを診断できた(AUC=0.60-0.92)。多量飲酒頻度は地域住民集団(AUC=0.78-0.87, 精度=0.72-0.80)と患者集団(AUC=0.85-0.92, 精度=0.77-0.89)の両方で有用であった。最も診断能が良好であったのは多量飲酒の回数と低リスク飲酒量を超える飲酒の頻度であった。これらの結果に性差を認めなかった。		
<b>結論：</b> 飲酒量と頻度などの飲酒行動の指標は地域住民および患者集団でAUDを診断できた。		